

2020年12月01日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【少々気が早い、クリスマス相場に突入】

12月に入った。

振り返ると、11月23日の日本の「勤労感謝の日」を終え、11月26日の米国の「サンクスギビングデー」を終えた。

少々気が早い、「クリスマス相場」に入っている、と言って良い。

今年(2020年)を俯瞰すると、「コロナウィルス」に振り回される1年だった。

「コロナウィルス問題」で、オリンピックは延期された。

そして、その感染拡大は、未だに収まっておらず、予断を許さない状況が続いている。

このところの報道では、新型コロナウイルスのワクチンの開発や承認が話題になっているが、それも端緒に過ぎず、そのワクチンの有効性が確立した訳ではない。

治験の段階では、それらのワクチンに副作用が無いことを確認しているのだろうが、実際に多くの人々に接種する場合には、副作用の発生が検出される可能性も否定できない。

ワクチンの価格の問題も大きい。

豊かな国にとっては、ワクチンの購入も難しくないが、貧しい国にワクチンがいきわたるのか、大いに疑問だ。

そう考えると、「コロナウィルス問題」は、引き続き、来年の相場にも、大いに影響を与え続けるのだろう。

もちろん、この「クリスマス相場」や「年末年始相場」にも、大いに影響がある、と考えているが・・・。

12月に入り、市場参加者が、これから徐々に少なくなっていく。

市場参加者が少なくなると、突飛な値動きが起こり易くなる。

そういった場合にも対応できるように、「クリスマス相場」は、ポジションを小さくすることが原則だ。

特に、今年は、上述の通りに、「コロナウイルス問題」を抱えている。

無理をしないで、生き残ることに注力したい。

+++++

(2020年12月01日東京時間13:40記述)